

大雨に伴う被害防止対策について

気象災害対策R3-4
令和3年8月13日
農林総合研究センター

I 気象の概況

石川県では、活発な前線の影響により、14日にかけて大雨の予報となっている。

また、その後も来週にかけて大雨が続くと予想されていることから、今後の気象情報に十分留意し、被害防止対策に万全を期してください。

II 被害防止対策

〈要旨〉

- 1 冠・浸水した水田では稲体が軟弱化し、病害の発生が懸念されるので、排水後にはほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。
- 2 園芸品目は、長時間の停滞水によって根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良、落葉等の生理障害を生じやすいので、圃場内の排水を徹底するとともに、冠・浸水した圃場では、早急に防除を実施する。

〈詳細〉

1 水 稲

- (1) 冠・浸水したほ場では、できるだけ早くほ場内の排水に努める。
- (2) 河川からほ場や用排水路に土砂が流入した場合は、土砂を除去し、通水を確保する。
- (3) 冠水したほ場では、稲体が軟弱化し病害の発生が懸念されるので、排水後にはほ場巡回を行い、早期発見に努め防除を徹底する。

2 大 豆

- (1) ほ場内の滞水は、生育遅延や根腐れのほか茎疫病の発生を助長するので、速やかな排水に努める。
- (2) 冠・浸水したほ場では、できるだけ早く流入土砂の除去や排水溝の手直しを行い、ほ場内や排水溝の停滞水を排出する。

3 野菜・花き（だいこん、ブロッコリー、白ねぎ、トマト、きゅうり、花き類等）

野菜・花きは長時間の停滞水に弱く、根腐れや根の機能低下、地上部の生育不良を生じやすい。また、生育初期のだいこん、白ねぎ、花き等は病害による品質低下などの障害が発生しやすいので、晴れ間や圃場の状態を見て、速やかに以下の対策を実施する。

〈施設栽培〉

- (1) 通路等に停滞水がないよう、表面排水に努める。
- (2) 長雨により防除が出来ない場合は、必要に応じてくん煙剤を使用して病害のまん延を防止する。
- (3) 曇雨天時は同化養分が少なく、着果数が多いと草勢が弱くなるため、適宜、摘花や摘果を実施する。
- (4) 降雨後の強日射時は、萎れや生長点等の焼けが懸念されるため、頭上から噴霧散水や摘葉を行う。

〈露地栽培〉

- (1) ほ場やうね間に停滞水が見られる場合、表面排水に努める。うねが長い場合、一部をつぶして横方向にも排水のための明渠を設け早期排水に努める。
- (2) 冠・浸水したほ場では、根腐病や軟腐病等の被害が発生しやすくなるので早急に殺菌剤による防除を実施する。また、茎葉が泥水等で汚染された場合は、適量の範囲内で洗い流すように防除する。
- (3) 被害状況に応じて速効性肥料の施用や液肥の葉面散布などにより草勢の回復に努める。微量要素欠乏が懸念される場合、葉面散布に微量要素を加用する。
- (4) 花きでは、フラワーネットが傾いた場合、ネットを張り直して株を起こす。

4 果 樹（なし、りんご、ぶどう、かき、くり、いちじく 等）

- (1) 収穫期にあるハウスぶどうでは果実裂果の発生が懸念されるので、ハウス谷間の排水とハウス内の換気を徹底する。
- (2) 落葉性病害や果実腐敗性病害の発生が懸念されるので、天候回復後の防除を徹底する。

5 畜産・飼料作物

- (1) 畜舎への雨水の進入を防ぎ、配合飼料・乾草等は、濡れて変敗しないよう、安全な場所に移動する。
- (2) 飼料畑ほ場に排水溝を設けて表面排水を徹底する。